

# 高齢化社会をよくする 女性の会会報

No.26

1987年7月発行

高齢化社会をよくする女性の会  
東京都新宿区新宿2-9-1  
第31宮庭マンション802号室  
TEL. 03-356-3564



## 目次

- 1987年度会方針 樋口恵子代表……………1~2
- 第5回総会報告……………2~3
- 男、老いを語る① 青木雨彦……………4
- これからのお墓と女性……………5~6
- 老人福祉施策に関するアンケート調査…7~8
- グループ紹介・名簿訂正……………9
- 声欄・老人福祉問題全国研究集会……………10
- 新入会員・住所変更名簿……………11~12

## 九月に埼玉で会いましょう！

—— 第五回総会、盛会に終了す ——

### 全国福祉マップ

#### 作りを財産に

第五回総会で承認された今年度の会方針について、樋口代表のあいさつから抜粋し、皆様にお知らせします。

◇ ◇ ◇  
今年度も当会最大のイベントは九月の第六回女性による老人問題シンポジウムです。本年度は、埼玉県知事と話し合い埼玉県と共催が決定しました。三年前神奈川県でのシンポと同様に、今日も埼玉県在住の会員の方々が自主的にお集まりいただき、会を盛会にすべく分科会をサポートする活動等、シンポに向けて回を重ねていただいていることは大変心強いことと思っております。

シンポのねらいを申し上げます。有料老人ホームや福祉施設もけっこう。しかし、在宅で家族と共に暮らしている人も含めて、私たち人間の尊厳に満ちた老い方、死に方ができる状況を、上から与えられるのではなく、私たち自身の手で受け皿を作っていこう。そのために現状はどうなっているのか。そこで、とくに老いに近く、老いを長く生き、老いをより重く背負っている女の目から日本地図を作ろうという五年前発足の悲願がかなって、やっと今年、全国福祉マップ作り調査実施のはこびとなりました。

と同時に、これをシンポのテーマに取り上げて全国の地域グループの方々と交流を図り、それぞれの地域で老いやすい、死にやすい状況を手作りしていく全国レベルでのグループ大集合の場にしたいと

思っています。

二つめは、シンポのテーマと絡んでいきます。全国の福祉マップ作り調査です。

もし今、私が倒れたら誰が？ の不安に  
 応えて、全国在宅福祉サービスの実態を、  
 行政側はいつたい何をやっているのかと  
 いう行政側に対する調査が一つ。もう一  
 つは、行政調査の網の目からもれている  
 のが、私たち中流の老人像です。世のす  
 みずみにうもれているふつうの老人の老  
 い、それを看取る人の息づかいがわかる  
 調査を行う。そして、これを行政側に示  
 し、よりよい行政を行ってもらおうとい  
 うのが二つめの調査の大変大きなねらい  
 なのです。

で、行政の側と現にお年寄りをかかえ  
 ていられる側と両側から調査を行い、日  
 本中の福祉地図を作りあげたいのです。

この調査により、私たちの活動の新しい  
 展開をさらに年を重ねることにより、  
 私たち会全体の財産を。そのための手始  
 として行いたいと思います。

広く皆様のご協力をお願い致します。

代表 樋口 恵子

表1 1986(昭和61)年度決算報告

収入の部				支出の部			
科目	予算	決算	増・減	科目	予算	決算	増・減
前年度繰越金	7,477,130	7,477,130	0	会報製作費	540,000	520,375	△ 19,625
会費(入会金含む)	3,310,000	4,192,600	882,600	研究活動費	800,000	569,080	△ 230,920
印刷物配布(売上)	300,000	1,319,172	1,019,172	会員対策費	500,000	349,276	△ 150,724
イベント参加費(収入)	850,000	1,976,100	1,126,100	印刷物製作費	500,000	1,761,253①	1,261,253
雑収入	100,000	425,181	325,181	総会費	100,000	50,695	△ 49,305
計	12,037,130	15,390,183	3,353,053	人件費	1,400,000	1,357,216	△ 42,784
				旅費交通費	400,000	214,115	△ 185,885
				送料通信費	800,000	396,880	△ 403,120
				水道光熱費	50,000	36,312	△ 13,688
				消耗品費	300,000	154,099	△ 145,901
				修繕積立金	36,000	36,000	0
				イベント費	3,600,000	2,408,890②	△ 1,191,110
				予備費	3,011,130	1,920,000③	△ 1,091,130
				次期繰越金	0	5,615,992	5,615,992
				計	12,037,130	15,390,183	3,353,053

〈支出の内訳〉

- ①第4回報告集印刷製作費 ￥1,248,000
- 大学生意識調査印刷製作費 ￥314,000
- テープ起し、校正、交通費等 ￥199,253
- ②有料老人ホームシンポジウム ￥370,120
- 秋のシンポジウム ￥2,038,770

(注)

58年4月～62年3月までの事務所賃借料  
 月4万円

第五回総会行わる

去る五月三〇日第五回総会は飯田橋セントラルプラザ五F会議室で午後一時半から行われた。

高見澤たか子理事の開会あいさつに続き、藤久ミネ理事の総合同会で、議長に樋口恵子代表、書記望月幸代理理事・富山稔子運営委員を選出し、総会出席者一名、委任状二八九通、計四〇〇名で会は成立、議事に入った。はじめに金谷千都子理事により一九八六年度活動報告、次に清水和子理事により決算報告(表1)、藤原房子監事の監査報告を経、拍手多数により承認された。

続いて八七年度活動計画を樋口恵子代表が(一、二頁)、予算案(表2)を清水和子理事が提案し、質疑応答が行われて、議案は承認された。

以下に質疑応答の一部を紹介したい。都内在住の会員は「有料老人ホーム研究に続いて、公的ホームの研究も力を注

表2 1987(昭和62)年度予算案

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
前年度繰越金	5,615,992	活動費	会報製作費 650,000
会費(1)	3,682,500		研究活動費 1,500,000 ①
印刷物配布(売上)	400,000		会員対策費 500,000
雑収入(2)	150,000		印刷物製作費 700,000 ②
(1)個人会員@ 6,000×649 グループ会員@ 12,000×43 賛助会員@ 50,000×10口	}×¾		総会費 100,000
(2)受取利息、カンパ他		人件費 1,850,000 ③	
小計	9,848,492	旅費交通費 100,000	
イベント参加費(収入)	2,000,000	送料通信費 600,000	
特別積立金	1,920,000	水道光熱費 50,000	
小計	3,920,000	賃借料 480,000	
計	13,768,492	事務費 250,000	
<支出の部内訳>		雑費 50,000	
		修繕積立金 36,000	
①在宅老人福祉サービ スアンケート調査	¥ 1,150,000	予備費 2,982,492	
その他の活動費	¥ 350,000	小計 9,848,492	
②会員名簿作成費	¥ 250,000	イベント費 3,500,000	
その他資料等	¥ 450,000	イベント予備費 420,000	
③事務局人件費(2名) VT等	¥ 1,600,000 ¥ 250,000	小計 3,920,000	
		計 13,768,492	

(注) 予備費決算の賃借料4年分を樋口代表が、そっくり特別積立金として御寄付くださったもの。

いでほしい。ホームへ放つぱりばなしの家族の問題も共に考えてほしい。新会員から「今、ホームに対するトラブルが非常に多い。当会で弁護士さんを中心にトラブル相談機関のようなものを作ってほしい」。岐阜から遠来の会員は「保守王国岐阜でもよくする女性の会」ができた。

マップ作りを手がかりに結束を図ってきたい」等々、多数の建設的な意見が出、会場をわかせた。

最後に、本年度シンポの会場である地元埼玉県会員の方々が代表によって紹介され、九月のシンポでの再会を約して第五回総会議事は無事終了した。(S・M)

## 男、老いを語る



青木雨彦

このあいだ、機会があつて仲間と昼食を共にした。昼食といたつて、ま、お弁当である。

そのとき、一人がテーブルにこぼしたゴ飯粒を拾いながら、

「まあ、なんだね。トシイとつてくると、どうしたつてだらしがなくなる。たとえ、忘れ物をする。飯を食つていても、こつやつてこぼす」

と言つながら、思わず嘔き出しそうになつた。

「うんうん」

みんなが頷くと、彼、

「ちかごろ、なにがイヤつて、これを女房に指摘されることくらい、イヤなことはないね。女房のやつ、オレが飯でもこ

ぼすものなら、それこそ鬼の首でもとつたように、ホントに、あなたはだらしがらないんだから」と顔をしかめる」と呟いてから、

「トシイとつてだらしがなくなったことは、このオレにだつてわかつているんだ。飯イこぼすたんびに、ああ、オレもだらしがなくなったなあ」と思う。じつにもう情けない気持ちでいっぱいだよ。それなのに、女房のやつ、駄目を押すようにホントに、あなたはだらしがらないんだから」と言いやがる。ちかごろ、あれがいちばんイヤだねえ」

と言い出したので、みんな、シュンとなった。言つちヤナンだが、みなさん、それぞれ思い当たるフシがあるみたいだつた。

そこで、

「どうだろう？」

と、わたしが提案した。正直な話、こちらで誰かが何か言わなきゃ気が滅入つちやつてしょうがない。

「だからサ、そういうときは、女房に言われる前に、自分のほうから、あゝあ、

またこぼしちゃつた。オレもトシとつたなあ」と言つちやうんだ。そうすれば、女房だつて「イイエ、あなた、そんなことはいわよ」と言つてくれないかね？」

とたんに、

「言つてくれないなあ」

みんなが異口同音に叫んだのには、笑つちやつた。わたくし思うに、これだから、日本の亭主はダメなのである。

俗に、

「ああ言えば、こつやう」

と言つ。亭主がああ言つと、女房はこつやうなのである。横暴な亭主に鍛えられたきた女房としては、そうせざるをえない。もとを糾せば、亭主がそういうふう

に仕向けて、楽しんでいた面もある。

ところが、トシをとつてそれがメンドくさくなつていのに、女房は相変わらずだ。

いや、わかつていて、突つかかつてくるようなところもある。

男が「老い」を感じるのは、こつやうときである。女性のみなさん、どうですか？

第五回総会 記念講演

「これからのお墓と女性」

講師 藤井 正雄（大正大学教授）

「先祖代々のお墓にはいるのはいや、夫と二人、新しいお墓に眠りたい」、こういう希望を持つ人が増え、お墓の需要はふくれ上るばかり。このままいけば、狭い国土はお墓で埋まってしまいかねません。

そもそもお墓とはいったい何なのか、これからのお墓について、どう考えるべきなのか。こうした疑問について、ご自身仏門の出であられると共に、東京都の霊園問題委員会の委員もなさっていられる藤井先生のお話は、教えられるところの多いものでした。また先生が世界をまわって撮影された、いろいろなお墓の写真をスライドで見せていただいたことも大変参考になりました。

墓の歴史

墓に対する感覚は、現代と昔とでは、だいぶ違う。「葬」という字を見てもわか

るように、「葬う」とは「死体を草と草でおおう」の意であり、「墓」とは「土で遺体を隠す」ことであった。

つまり一般には死体は棄てていたものと考えられる。平安時代、あれほど権勢を振った藤原氏でさえ、「自分の父の墓はわかるが、その先はわからない」という記録が残っている。

仏教における墓

仏教の発生地インドでは、墓を作る習慣はなかった。日本に伝来後、仏教は民族的な習慣を取り入れながら同化を果してきた。

かつて山墓と寺墓との両方があったことも、その一つの証左である。では仏教では墓をどう考えるか。

人間に限らず生きとし生けるものは、「風水地」という四つの要素（四大）が集まってできているとみる。すなわち、生きものはこの「四大」が縁によって仮りに結ばれている（仮和合）のだから、死んだあとは風葬、火葬、水葬、土葬によって、再びもとの世界に戻してやるのだという考え方である。

卒塔婆に書かれている難しいあの文字はこの「四大」を表わす。卒塔婆はStupa（塔）の意で、釈迦の舍利を供養するための宝塔の意である。鎌倉時代になると死者を葬ったあとに板碑が建てられるようになり、さらに江戸時代には、福神信仰と結びつき、現在の墓にも見られるような「福祿寿」を意味する三層の墓の形式ができ上る。墓石の下は土葬であったから、江戸時代は個人墓であった。先祖代々の墓が出現するのは、大正初期からである。

墓石の正面上部に刻まれた円は、「人間の世界の完全無欠な円」を表わし、仏を勸乗した仏塔を意味する。墓は命の永遠性を感じ得る場であると同時に、故人を思い起こして霊を慰める慰霊の場でもあった。したがって仏を拝むことによって、亡き人も拝むことになったのだったが、墓石に家紋を刻むようになってからは、仏塔の意味は消え、単なる墳墓になってしまった。

火葬はいつから

文武四年（七〇〇年）に火葬を行った

という記録が残っているが、翌年に発布された大宝律令の中の「防人令」には、「行軍中に亡くなった人がいれば、ダビにしてよい」と記されている。最近の資料によれば、火葬は縄文時代からあったらしい。明治六年には、「火葬禁止令」が出ているが、これは野焼きを禁止したもので、現在の火葬場での火葬とは違う。明治十七年には、「新墓地禁止令」が出て個人で墓を作ることが禁じられた。それによって明治中期には、火葬は二五パーセントになり、さらに明治三十年には、「伝染病予防法」により、火葬が義務づけられ、各都市に火葬場が作られるようになった。しかし、戦後でも火葬は五十パーセントであり、現在に至って九十パーセントの普及率である。

### 現代の墓意識

昭和四十年頃から、大規模霊園が続々とでき、仏教を離れた墓が出現する。都市への人口の集中、家族制度の消滅による家の觀念の崩壊、そして墓の本来の意味が忘れられてしまったことなどの原因がからみ合い、いま新しく墓を求める人

たちが増えている。

「姑の眠る墓にははいりたくない」とか、先妻と一緒にではないや」という現代の女性たちの主張は、「女性の自立」と見るべきなのかどうか。墓を現世の生活の延長と考え、宗教の欠落したところに、墓問題も出てくるのではなからうか。仏教の根本的な觀念を考えれば「極楽は平等社会、人間感情を超越した世界」であるから、だれと一緒にでも同じはずだ。

### これからの墓のあり方

「墓石にひびがはいると縁起がよくない」という迷信を信じる人が少なくなない。そうした迷信のもとになるような石塔など、やめてしまってもいいのではないか。私たちはこれまで、墓についての関心が薄かったがために、かえって墓問題を混乱させてしまったのではないだろうか。

世界の墓を見渡してみると、実にさまざまに楽しい墓のあり方に気付かされる。

ロンドンの市営墓地やミラノの記念墓地は、カタコンベといって鳩の巣状の納骨堂を持った美術館のような墓だ。また、ユロンバリウムといわれる壁墓所は、

たとえばドイツでは古い家の姿で、スイスでは森の中に回廊式という形で、建物の壁面に納骨ができるようになってい。狭まい土地を有効に使うという点で、これからの墓のあり方の指針を示すものといえそう。

またイギリスでは、超合理的な考え方で、「ローズツリー・ガーデン」とか「ローズブッシュ・ガーデン」などといって、ばらを植え込んだ美しい公園そのものが、すべて墓所になっている。ばらの木の下にネーム・プレートを埋め込んだり、ベンチの背、並木の木、立ち木あらゆるところが墓所になる。これは、「スキヤタリング・グラウンド」という墓地のスタイルだ。さらに新しい発想の墓地は、ハンブルグの芝生全体が墓地になっている霊園。骨を灰にして芝生にまき、どこにまいたかは遺族には知らされていないので、公園全体が墓地というわけである。

私たち自身に墓についての新しい発想と、本来の墓の意味を問い直す姿勢が必要だと思ふ。

(高見澤たか子記)

## 老人福祉施策に関する アンケート調査のお願い

前号の会報でもお知らせしましたが、調査の身について概要を改めて詳しく説明します。

まず「老人福祉施策に関するアンケート調査」で自治体向け調査。これは各自治体がどんな老人福祉施策を持っているか。必ずしも在宅ばかりでなくて、老人ホームがいくつあるかとも含めますが、ある程度絞り込んだ、しかしもうちょっと広い調査です。出すルートは二つ、まず全都道府県知事宛。これは運営委員のなから調査委員会を作り、何度も機会を重ね、専門的なデータの読み方にも耐え得るものというもので、専門家の指導も経て、調査表を作りあげたわけです。この大きい表に答えていただく主体は市区町村です。老人福祉行政は、かつては機関委任事務で国のやることを代行していたが、今は団体委任事務になって老人行政の受皿は市区町村になっていって

いるわけです。

答えていただくルートは、各県知事に調査表を添えて、こういう調査をしたい旨を送り県自体にもお答えいただくと同時に、その県の中から、進んでいるところを紹介してもらいます。

だからタイトルも、「全国の老人福祉グループ大集合、老人福祉自慢西東」とやりました。各県知事の名において、わが県では老人福祉のユニークな市町村はどこですよというところを二つだけ推薦してもらおう。全都道府県と政令都市も入れて六〇。もし百パーセント回答があるとすれば、一二〇ぐらいの自治体をご推薦いただけるわけです。こんな都合良く推薦くると思いませんので、あちこち頼んでやります。

二つの市区町村をご紹介いただき、その市区町村にはすべて、大きいサイズの自治体用調査がまいります。どういう福祉サービスが自治体として行っているか、何人がサービスを受けているか、等の内容が書かれていて調査をします。そういうのが一つのルートです。

もう一つは小さいサイズの「在宅老人福祉施策に関するアンケート調査」です。

常時目が離せず、介護の人を要するお年寄を抱えている人のお宅を見つけ出し、そのお宅の介護者に聞き取り調査をしていただきます。調査者はわが会員の皆様方で、お年寄を抱えているお宅へ行き、そこに書いてある質問を読みながらしていただくのです。

たとえば「今いつしよに暮らしていらつしやるのはどなたですか」と聞く。「おばあちゃんが倒れています。おじいちゃんはまだ元気でおります。でも介護の役には立たないです」と言ったら、一、老人の配偶者というところに丸をつける。「私が次男の妻で世話しております」と言ったら、五の子どもの配偶者というところに丸をつけるわけです。

という具合にかなり細かい聞き取り調査で、これやったらお年寄を抱えている人の時間を、おそらく一時間ぐらいはお時間をちようだいしなきゃならないという大変なものです。この調査を主としてお願いするのは、当会のグループ会員の方々

で、たいへん質の良いグループというふうに私は考えております。そういう方がたなら調査に慣れているしプライバシーを守るといふ点でも安心していきます。言いよどまれたことを上手に聞き出すのもうまいだろうし、あるところで踏みとどまることも大切。プラシバシーに踏み込まぬ一つの大事な点ですから固有名詞は書きませんということをし、むしろ最初に申し上げていただきたいと思えます。

フリーアンサーの部分もあります。ポケ、寝たきり、片マヒで今のようにな寝たきりになるまでという状況か等は口で聞いて下さい。「三年前に脳出血で倒れ一時良くなったけどまた一年半前に倒れた。最初は片マヒでみんなまで面倒をみたんだけど、二度目に倒れたらほんとうに寝たきりになって、ポケが出てきて」、などのようにみんな言った通りにずっと書いて下さい。

この調査は各グループ会員に五部ずつお送りするということになっています。約四〇グループで、これで四〇×五二二〇〇です。

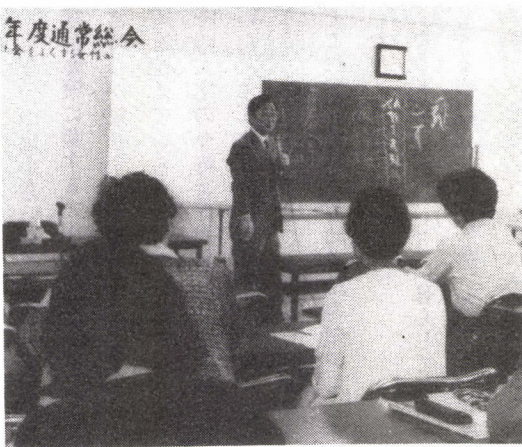
グループ会員にはなっていないけれど、私どもで明らかにこの方は個人会員ではあるけれど、かなり活動的なグループの一員であるという方には、個別にお願いし、できたら少なくともこの方たちにも二〇〇。もしもつと皆様のご協力が仰げるならば、五〇〇ぐらいまで集めたい。この調査は私たちのこれからの活動のいろんな意味で財産ですし、国や県にいろんなことが要望できると思えます。

会員数のたいへん多い会で一〇部できますという方、それから、グループ会員でグループの責任者、ないしはそれに近い立場なのでやってみたいという方があったら、ぜひお名乗り出てくださいたいと思えます。

三つめの方法もあります。これはグループ会員で、たとえば静岡県富士市のところで五部やって下さるというので送ったとする。そして行政区域内が富士近辺になる五人のお年寄りの実態がわかるとするとその富士市へも一つめの大調査自治体調査が行く。ですから自治体調査のぐるルートは二種類で、一つは県知事推

薦による「老人福祉自慢、お国自慢東西」が各県二つずつ、それからもう一つは私どものグループ会員が、現実に寝たきりやポケを抱えていらっしやる自治体で調査をする。実態は寝ている側はこうだ、ポケている側はこうだ、その自治体では何をしていた下さるのだろうか、という限られた地点での行政と受ける側のズレが見えて調査の結果とうまくドッキングすればすばらしいと思えます。以上が調査のいちおうの概要です。

(樋口 恵子)





## グループ紹介

### ■いづみの会

私共「いづみの会」は一昨年十月に発会いたしました。鎌倉が大好きで老後もここで過ごしたい。そして現在助けを必要としているお年寄りにお手伝い出来ることはないか、又私達の活動が若い方達に、子供達に受け継がれていったら、という願いを持った女性達が集まって作られました。

中々理想と現実は一致せず、熱い思いの割には思ったような成果もあげられませんが、自分達の出来る身近な事をと、活動してまいりました。

### 一、お弁当の作成

おいしいお弁当を適正な価格でお届け出来たらとの思いから、注文して下さる方や、お年寄りにお届けしています。全員食品取扱者の資格を取り調理士資格を持ったメンバーもおりますが、専用の台所がなく定期的に作れないのが難点です。

### 二、講習会開催

県の福祉課の方の講演会を開き、県の

老人対策の現況、未来への展望を勉強しています。

### 三、活動資金作り

#### バザー・クッキー販売

現在毎週一回クッキーを焼いて会の主旨に賛同して置いて下さるお店に出荷しています。

以上ささやかな活動の中から感じることは今後高齢人口の増加を迎え、公的機関の助けもさることながら、極く身近な地域の隣人同士の助け合いと若い人達の理解と力を借りて行かねばならないということとです。それと同時に思いはあっても経済的資力に個人の限界をも感じます。

今後各地の私共のような集まりの活動報告、各地域の公的機関の老人福祉対策をお知らせ下さい。私共の活動に指針と刺激を与えて下さるようお願い致します。

#### 連絡先

鎌倉市常盤九三七―一六四  
宇田川 晴代

### ●おわびと訂正

第二五号会報別添の「新会員・住所変更」名簿に以下の誤りがありましたので、おわびして訂正いたします。

◇ ◇ ◇

・一頁、一二人め

(誤) 小塚みつ子↓ミツ子(正) ミツコ

・一頁、一四人め

(誤) 西條政治↓(正) 西條正治

・二頁、二人め

(誤) 青田孝子↓(正) 青景孝子

・三頁、一〇人め

(誤) 宇田川通子↓(正) 宇田川道子

・三頁、一三人め

(誤) 桜沢いね↓(正) 梅沢いね

・四頁、二八人め

(正) 鈴木洋子 TEL 〇四五・五七一

三六七―

・五頁、七人め

(誤) 都留弘子 杉並区松庵三一一―

一一一

第二松濤ハイツ二〇一号

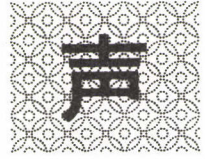
(正) 杉並区松庵三一一―二二

第二松寿ハイツ二〇一号

・五頁、一八人め

(誤) 仁木佳代子 西宮市甲子園

(正) 兵庫県西宮市上甲子園一―一五―二四―一〇四



## 私の孫育て

京都市右京区

佐藤たづ (59歳)

孫を預り育てて五年が過ぎました。最初の孫は今年ピカピカの一年生になりました。今は娘の孫を預り三歳を迎え、この七月には第二子が産まれる予定です。娘は仕事を続けることを希望し、今はなんとか両立させています。職場の中で、子育てのために、女子が仕事を持つことの大変さに悲鳴を上げ中には職を断念した方もあるようです。

今女性の能力を生かせる機会の多くなった社会です。共学となって、男子と共に学問を修めるのも当然そのように変わってくるのだと、私は嬉しくその変化を受け止めています。その最大の難関が子育てです。

そこで五十五歳、六十歳で退職、そのあとの人生は、まだ三十年あるのです。退職したところは孫と出会う頃です。まだまだ老人ではありません。孫と共に第二

の人生に行くことは、とても価値あることだと思います。

余暇をどう過ごすのかの課題を目にしながら、私は孫育てをする中での、トギレトギレの空時間を、ラジオの講座を聞いたがり、送って下さる会報をよく読んだり、そしてそれに対して自分の考えをノートに書きおいたり時には、送らせていただき、社会の動きの中にも自分を入れていきたいのです。出かけていろいろな講演会や大会などに参加できないのがとても残念ですが、時に参加することが出来た時は、その会場の、ふんいき、講演の内容を全身で受け止めて、それを肥料にして又孫育てという日々です。

預ける方も預かる方をお互に負担が片寄らないようにと、心遣いはしております。

鈴木円乗先生の孫育てを拝見し、又一工夫した孫育てを続けていきます。



## 豊かな老いを全うできる社会の創造を

### 高齢化社会をよくする女性の会入会ご案内

- \* 入会申込みは、ハガキに氏名(フリガナ)、性別、生年月日、住所、電話、仕事または活動などをご記入の上、事務局宛お送り下さい。
- \* 入金基金(一口¥1,000)と会費(個人・年間¥6,000)を下記の口座にお振り込みください。払い込みをもって会員と認めます。

三井銀行四谷支店(普通) 172-5101768  
郵便振替 東京 0-79477

1987年4月～5月末日・入会者名簿

氏名	〒	住所	TEL
米田 禮子	561	豊中市曾根東町3-7-3 豊中市立中央公民館	06-866-0555
岩瀬 雅子	085	釧路市緑ヶ岡2-2-10	0154-42-3059
森 遊子	157	東京都世田谷区北烏山4-35-21-206	03-307-2635
三田 公美子	963	郡山市清水台2-13-23 郡山第1ビル3F	0249-23-2807
石原 八重子	194	町田市旭町3-19-9	0427-23-0958
鎌田 下枝	156	東京都世田谷区松原5-53-8	03-328-2608
玉田 弘毅	272	市川市菅野4-16-5	0473-26-4507
阿部 美保子	152	東京都目黒区碑文谷1-11-20	03-711-4800
塙 多津子	228	相模原市鶴野森350-2 リリエンハイムC-31	0428-45-9824
服部 万里子	567	大阪府茨木市新庄町13-15	0726-33-1287
箭内 伸子	963	郡山市愛宕町1-23	0249-34-8117
遠山 まり子	202	保谷市泉町5-8-8	0424-21-6492
浜津 順子	183	府中市清水ヶ丘2-21-5	0423-63-1463
丸山 令子	133	東京都江戸川区南小岩6-7-7	03-657-1567
西村 好江	166	東京都杉並区和田3-44-11	03-312-1737
吉田 喜美江	312	勝田市大成町23-8	0292-73-7895
安藤 春枝	260	千葉市高州2-5-7-201	0472-44-8242
熊倉 照代	228	相模原市東林間1-24-13	0427-46-2248
青木 千代美	963	郡山市富久山町久保田60	0249-38-8844
深澤 サチ	963-01	郡山市安積町笹川字四角垣50-2	0249-45-2127
吉田 ハツ	963-04	郡山市片平町西字西高森3-6	0249-52-0919
森田 照子	151	東京都渋谷区元代々木43-3	03-466-0847
高橋 靖子	125	葛飾区新宿5-22-21-511	03-609-1261
今川 イネ子	963-01	福島県郡山市安積町荒井字車前田37-3	0249-45-1623
一力 博子	982	仙台市八木山香澄町1-8	0222-23-7435
楢島 美津	193	八王子市狭間町1994-446	0426-65-3202

1987年4月～5月末日・住所変更者名簿

氏名	〒	住所	TEL
西田 靖子	810	福岡市中央区赤坂1-12-15 読売福岡ビル8F	
大村 あや子	178	東京都練馬区東大泉1-34-8 フジスポーツ内	
高齢化社会をよくする北九州女性の会 高安 兆子	802	北九州市小倉北区船場5の2	093-962-4478

1985年8月～1987年5月末日・入会グループ名簿

グループ名	代表者名	〒	住所（連絡先）	TEL
生き方講座	野口 房子	395	長野県飯田市滝ノ沢5819-8	
いこまおんな大学	沼田 弘子	630-02	奈良県生駒市新生駒4-19	07437-3-6230 07437-4-4251
長寿社会文化協会	田中 尚輝	160	東京都新宿区高田馬場2-14-2 原田ビル902	03-205-8501
牛久ふれ愛の会	大座畑 真理子	300-12	茨城県牛久市柏田町3608-248	0298-73-9911
大阪消費者友の会	伊吹 和子	572	大阪府寝屋川市池田西町13-13	0720-26-1322
活年研究所	高野 進	106	東京都港区麻布台1-7-8	03-585-2557
神奈川婦人問題協議会	有吉 三津子	222	横浜市港北区菊名6-23-19神野和子様方	045-432-8895
香川県老人福祉問題研究会	兼間 道子	760	香川県高松市栗林町1-4-26堀上ビル3F	0878-34-8989
上条 絢子	上条 絢子	390	長野県松本市神林寺家	
鎌倉いづみの会	水本 一子	248	神奈川県鎌倉市常盤937-136	0467-32-3186
川口老後を考える会	織田 貴代子	332	埼玉県川口市西川口4-18-3	0482-52-4246
グループおもと —女の未来を考える—	倉橋 良子	184	小金井市中町1-3-11	0423-81-0185
高齢化社会をよくする 高知の会	今井 清子	781-02	高知市長浜941-58	0888-41-5240
高齢化社会をよくする 佐賀の女	下 平 美代	840-01	佐賀市高木瀬町東高木 佐賀県教育会館内	0952-31-7161
佐倉市役所福祉課	関 ひろみ	285	千葉県佐倉市海隣町97 佐倉市役所福祉課	0434-84-1111 内2251
高島平の福祉と医療を すすめる会	長谷川 章子	175	東京都板橋区高島平3-10-10-401	03-975-1041
21世紀のシルバープラン を創る会	楠 美代	951	新潟市新島町通2-2000-1	0252-29-3994
ふくい生活と婦人問題 研究会	辻 きぬ	910	福井市松本2丁目19-21	0776-26-0664 0776-21-0356
ふなばし女性会議有志		273	千葉県船橋市夏見台4丁目19番4-214 見原様方	0474-38-1566
八千代高齢化社会を よくする女性の会	小高 信子	276	千葉県八千代市八千代台南2-3-6	0474-83-3365
ゆいの会	中西 郁子	960	福島県福島市渡利字扇田町6-2	0245-22-5028
老後をよくする富岡の会	安藤 正恵	235	横浜市磯子区杉田9-10-3	045-775-0427

事務局だより

9月11日・12日に埼玉県浦和市で開催されます第6回シンポジウム入場整理券を、会員の皆様優先にて申込みを受けつけますので、別紙ちらしを御覧の上、期日までにお友達おさそいのうえ、お申込みください。